

信州から農業と暮らしを考える

長野市 松木 ^{まつき}うさぎ さん

伝えよう
人に
良いこと
信州の食

りんごは、太陽の光だけでは育たない。月の出る夜との寒暖差があってこそ実がしまり糖度が高いりんごに実る。野生動物は、りんご栽培の天敵。冬、野うさぎは若い苗木の皮をかじってしまう。でも、そのフンは雪解け後にりんごの肥料になる。

月とうさぎ…食べ物や動物とつながってできあがっている。自然の恵みに感謝し、地球の循環を生かした農業をしたい。そんな想いを込め、今日もうさぎ姿ではね回る。

信州の食と自然を伝える「おもてなし」

農業は、やり方次第で「土の中から食卓・お皿の上まで」プロデュースできる面白みがある。市内の飲食店で、りんごを使った料理にデザートやカクテルなどが提供できたら、観光で訪れた方へ信州の食と自然を伝える「おもてなし」にも活かすことができる。農業を続け、りんごの花咲く豊かな景観を守り、農家にできる「おもてなし」。



農家として日々の暮らしを
慈しみ、安全・安心の食と、
土地の自然と景観をこれからも
ずっと守っていききたい。



いつもうさぎ姿のりんご農家。家を離れ、自分探しをしながら大学で心理学を学び、臨床心理士を目指していたが挫折。やがて体調を崩し、周りを見渡したときに本当にやりたいことを家業であった農業の中に見つけた。直売所で店番をしながらお客さまや友人に「孫子の代まで安全です」と言えるものを作りたいと考えるようになり、食べることの大切さを考え、家業を継いだ。

めざすのは持続的な循環型の農業

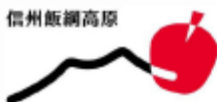
りんご専業農家に生まれた私にとって、物心つく頃からりんごは我が家の生活の糧であり、欠かせないものだった。毎年、実をつけてくれるりんごに自分も育てられたと感謝し、先代からの農業経験と技術を引き継ぎながら、手間を惜しまずりんごの木を子どものように育てて、少しでも体に優しく、おいしいりんごを長くお客さまへ届けていきたい。

まずは、りんごの木がきちんと根を張れる「健康で微生物が活発に動き回る土作りと水脈を生かした畑作り」に努めている。目指すのは、持続的に孫子の代まで農業と地域の環境を残していける「持続的循環型農業」。ゆくゆくは、すべての畑を自然栽培に切り替えていこうと奮闘している。



松木さんが営業担当を務める
農園のホームページはこちら→

信州飯綱高原



松木武久農園
Matsuki.T.Farm



【編集・発行】食育情報リンクネットながの

<事務局> 関東農政局 長野地域センター 農畜産安全管理チーム 電話026-233-2995

「食育情報リンクネットながの」は、長野県内で食育に関する様々な活動を行っている団体や食育に関心のある方々によるネットワークです。皆さまからの情報提供や参加ご希望などがございましたら、事務局までお知らせください。